

	告別・見送り・拾骨 完全一室型	告別・見送送一室 拾骨分離型	告別・見送り・拾骨 完全分離型
概要	告別)と見送りを告別室(炉前)注)で連続して行い、また拾骨も同じ炉前で行う。	告別と見送りを告別室(炉前)注)で連続して行う。拾骨は、炉前ではなく、別室(拾骨室)で行う。	告別は告別室で行い、炉前に移動して見送る。拾骨は、拾骨室で行う。
模式図			
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・炉前を個別のスペースとするため、会葬者グループが占有し、故人との最後の別れに集中できる雰囲気となる。 ・見送りを終えた会葬者グループと拾骨に向かう会葬者グループが出会わないよう、誘導あるいは動線の工夫が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・告別と見送りは、左欄と同様に、最後の別れにふさわしい空間、雰囲気を与えることが可能である。 ・拾骨は、雰囲気を変えるため、炉前に戻るのではなく、拾骨室を別途設ける。遺骨との対面の場にふさわしい空間、雰囲気を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・告別は、告別室で行い、その後、炉前に移動し、見送る。炉前は、全ての炉が一行に並ぶ大きなホールとなり、“占有”する印象が希薄となる。 ・また告別と見送りの間の移動が不自然であり、“流れ作業”との印象を拭えない。炉数が多い大規模な施設に適する、効率性を求めたプランである。

注) この場合の告別室は、棺を火葬炉に納める炉前スペースと一室化している。
「泉南阪南火葬場生活影響調査」(泉南市)より引用

アンケート調査

- ・実施期間：平成29年9月26日～平成29年10月31日
- ・対象者：亀岡市新火葬場整備検討審議会委員

〔アンケート調査の内容〕

- | | |
|---------------|----------------|
| 問1 火葬炉設備について | 問5 建物等デザインについて |
| 問2 待合スペースについて | ・特色ある建物デザイン |
| 問3 葬儀式場について | ・景観に合ったデザイン |
| 問4 先進地視察の感想 | 問6 基本コンセプトについて |
| | 問7 自由意見 |

○アンケート調査の回答要旨

問	回答要旨
問1 火葬炉設備について	収骨室の2室以上、告別室、動物炉が必要な意見がいくずれも高い値であったが、霊安室は約50%が必要という結果であった。主な内容は、今後増加が予想される火葬需要に応えられる設備整備を前提として、会葬者グループの錯綜を避けるための整備や動物炉は市民ニーズに応じて整備が必要という回答内容であった。
問2 待合スペースについて	待合スペースについては、「火葬場利用者が一般的に利用する待合ロビー」と「式場整備に伴い、式場利用者の着替え等で利用する待合室」とに区分される。待合ロビーについては、85%が必要という意見であったが、待合室は、式場整備が必要ない意見が比較的多くあり、ロビーがあれば必要ない意見が多くあった。
問3 葬儀式場について	葬儀式場は必要が35%、必要ないは55%であった。現在の社会情勢・経済情勢及び市民ニーズにより、民間葬儀社の式場利用が多ことを考慮された結果と思われる。

問		回答要旨	
		筑紫の丘斎場	篠山市営火葬場
問4 先進地視察の感想	良い印象	広域化の検討に参考となった。近代的建物で内外観とも工夫され、立派な施設であった。デザインを重視され、心が落ち着いた。	緑に囲まれ、静かな場所でお別れができる、良い印象を受けた。火葬場のレイアウトはシンプルで無駄なく、動線が分かり易く機能性があった。亀岡の火葬場の参考モデルになると思う。
	良くない印象	炉前ホールは広く感じ、動線が複雑で、利用しにくい印象であった。建物等デザインに特化しすぎて、火葬場と思えない。相당한予算額を要したと思われる。	民間葬儀社の利用が殆どで、式場は不要だと思う。市の中心地から離れており、市全体で考慮すれば、不便に思う。車受けに雨対策が必要であると思う。
問5 建物等デザインについて		特色ある建物デザインは必要が40%。必要ないが10%。整備箇所の景観に合ったデザインは必要であるが、特色ある建物デザインは必要ないが多く占めている。コスト意識や実用性を重視した意見が多くあった。	特色ある建物デザインは必要が80%、必要ないが10%。整備箇所の景観に合ったデザインは必要ないが多く占めている。
問6 基本コンセプトについて		亀岡の山並み。田園風景。保津川、亀岡の四季が感じられる。心安らぐ華の里。聖なる霧の亀岡。安らぎと尊厳への旅立ち。亀岡の自然・伝統・文化。温かな山並み。静かな建物。シンプルな廊下。保津川や自然をイメージ。霧の中に浮かぶ保津川下りのイメージ。亀岡の花暦。亀岡（かつての亀山）亀・山・丘を表徴した庭園。	

4 次世代ワークショップ

次世代ワークショップ
開催日：平成29年11月20日（月）
参加人数：21名
場所：亀岡市役所202・203会議室
グループ：（A～D）4グループ



◆次世代ワークショップの意見

○次世代ワークショップの意見を次に記す。

<p>建物(内装・外観)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然との調和・・・境界をつくらない。ガラスを多用し内外の区切りをなくす工夫。 ●ルーバーやすりガラスで霧を表現。保津川(流れ・水)のイメージ ●和らぎと温かみを感じる外観・空間 ●派手・豪華にならないように・・・静かに故人のことを考える空間 ●内装はシンプルに・・・お別れの場に 特化した空間に ●あたたかく、ゆったりとした木のイメージ ●天井は高く、自然光を取り入れる ●外観は古風、内装は洋館 	<p>待合スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多目的会場(フリースペース)の設置 ●個の葬送観を尊重し、コンパクトな葬送観にも対応できる空間を設置 ●デジタル写真スライドの映写機能 ●思い出の品・ギヤラリースペース ●亀岡の先人/図書・本棚(選書)/観光/特産品/キッズの各コーナー ●カフェ等の飲食スペース ●ピアノ等演奏 ●故人への手紙を記せる場所(手紙、机) ☞この手紙を亀岡市民の歴史
<p>外構等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雲海のイメージ ●亀岡をイメージした庭園 ☞庭園に回廊を設置し、心の和らぐ空間に ☞梅、桜、新緑、もみじ等の木々を植樹し、亀岡の一年の既設の変化を表現 ●散策可能な公園スペース ●駐車場はウッドチップ等を敷くなどコンクリート等の無機質な人工物は避ける。 ●自由度が高く、いろいろな人が集えるイメージに 	<p>基本コンセプト【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然・・・田園、霧、雲海、保津川(下り)、流れる水、自然に帰る、山々、森の中で送る、境界をつくらない、霧の中に浮かぶ舟で故人を送るイメージ ●多様性・・・新旧住民の共存 ●開放感・調和 ●夢の園 ●小鳥が囀る郷 ●瞑想の森 <p>心静かに過ごせる</p>
	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●おいしい水、京野菜の活用 ●動物炉、霊安室の設置 ●音響設備 ☞火葬炉のバーナーの音を消す ●土に帰還 ●イメージを良くする施設名の検討 ☞〇〇の森、〇〇の杜等 ●施設場所は、市の中央部かつ山の中で検討すべき ●直葬、家族葬等の葬送への対応 ●環境にやさしい施設(ソーラー発電、LED) ●神社仏閣との融和(歴史文化)

コンセプト

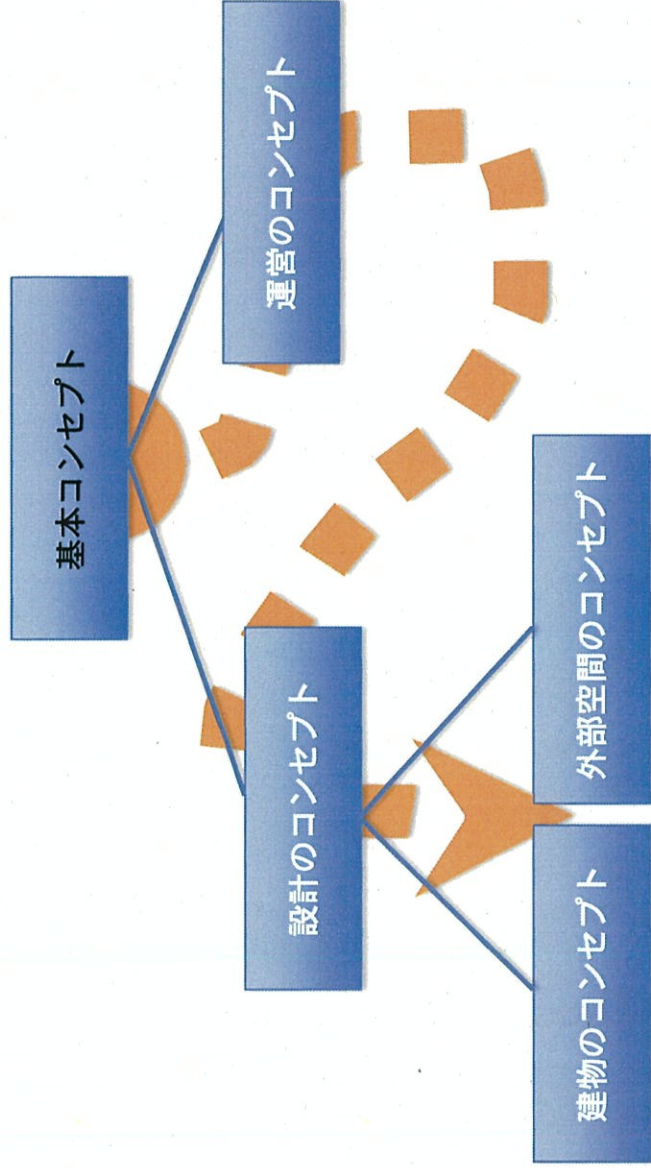
○葬送観・市民ニーズの変化に対応

火葬場は、故人に思いを伝え、故人を思い出させせる場、或いは故人が望む葬送観を表現する場という、送る側、送られる側の双方の視点を大切にし、遺族が心静かに過ごせる最期の時空を提供する施設であることが求められているのではないかと考えられる。

近年、家族のあり方やライフスタイルの変化により、葬儀（葬送）に対する考え方の変化が見られ、家族葬をはじめ、「個」の葬送観が尊重されるコンパクトな葬送が増えすぎてきているだけでなく、亡くなった方に身寄りがなく、葬儀なしに直接火葬場へ来られる場合（直葬）も増えてきている。

火葬場が、今、「生」を受けて生きる全ての人々が最期に利用する施設であることから、将来的な社会情勢の変化を捉え、亀岡市らしさを表現しながらも、こうした多様な葬送観に対応できる施設整備を進めていく必要がある。

そこで、審議会では、先進地視察、アンケート調査、次世代ワークショップで出された意見を基にして、コンセプトを下図のとおり分類し、それぞれから出された意見をまとめるとともに、アンケート、ワークショップで出たアイデアを以下に記すこととする。



○基本コンセプト ～亀岡の人と自然が見送る安らぎの場～

新火葬場の整備は、整備場所の景観に合わせた内容とし、故郷の山並み、霧、田園、保津川など亀岡の自然をイメージした、心静かに故人を送り、送られることのできる施設整備を基本コンセプトとする。

アンケート、ワークショップで出たアイデア

森の中で送る／霧の中に浮かぶ舟で故人を送る／聖なる川保津川
心静かに過ごせる☞小鳥が囀る郷・瞑想の森／開放感・調和
安らぎと尊厳への旅立ち／心安らぐ華の里／亀岡の花暦



○運営のコンセプト ～多様な立場・葬送観を受けとめる～

「遺族」や「故人」という送る側、送られる側という考え方をはじめ、多様な立場を理解し、それぞれの葬送観を受けとめる施設整備が求められる。そのためにも、将来的な葬送観の変化に対応できるフレキシブルなフリースペースや故人の生きた軌跡を感じ、故人に想いを伝えることができる、また、故人が自らの葬送観を表現する空間の配置を考慮し、遺族が心を癒せる、あたたかく落ち着いた空間を創造する。

アンケート、ワークショップで出たアイデア

故人のギャラリースペース、写真等の映写機能／故人の生きた証しを表現
故人への手紙を記せるスペース／音楽が流れる癒しの空間／図書スペース
亀岡の四季を感じる心とらぐ庭園の設置／カフェ等の飲食スペース
直葬への対応／散骨～森に還る、土に還る／施設名称の検討、募集



○設計のコンセプト ～心静かな、お別れの場～

①建物のコンセプト

自然との調和が図られ、和らぎと温かみを感じる外観・空間を創造するとともに、派手さや豪華さを控え、心静かに故人のことを思えるシンプルな空間を創造する。

アンケート、ワークショップで出たアイデア

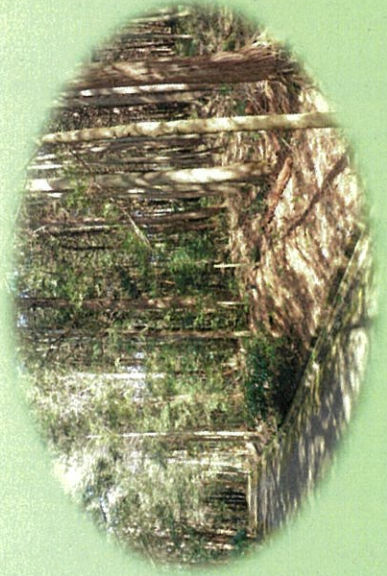
調和＝境界をつくらない／ガラスを多用、内外の区切りをなくす
ルーバーやすりガラスで霧を表現／天井を高く、自然光の取り入れ
あたたかく、ゆったりとした木のイメージ／火葬のバーナー音を消す

②外部空間のコンセプト

周辺エリアの土地利用（公園・墓地等）も含め、いろいろな人が集える、自由度の高い空間や故人が送ってもらいたいと思えるような空間を創造する。「亀岡」をイメージした庭園などの心を癒す空間、また、それらをつなぐ回廊（動線）づくりを検討する。

アンケート、ワークショップで出たアイデア

散策可能な公園スペース／音楽ホール・会議スペース等多目的空間
亀岡の四季の変遷を表現／故人を迎える杜／



新火葬場の整備内容

○新たに整備する設備内容

項目	内容	備考
火葬炉	現火葬場は平成28年度火葬件数838件に対して3基（最高6体/1日）で運用しているが、平成47年のピーク時（死亡者数1,147人）を見込み、人体炉として4基、そして胞衣炉及び予備炉1基の整備を検討する。	
動物炉 (ア)	ペット飼養家庭の増加及び市民ニーズを考慮して、動物炉1基を設置する。ただし、人の火葬との境界線をはっきりしておく必要がある。	新たな設備
告別室 炉前ホール (イ)	告別室は、他の会葬者との錯綜を避け、故人と会葬者が最後のお別れを密室で厳粛に告別が行える場所として整備し、火葬炉数に整合した室数を確保する。告別室から炉前ホール、そして火葬炉へ送る動線など、整備スペース及び事業費の削減を検討する。	新たな設備
霊安室 (ウ)	火葬の集中時で火葬スケジュールが輻輳している時等、棺を一時的に安置・保管する場所として霊安室を整備する。必要時のみ使用する冷蔵庫方式が望ましい。	新たな設備
待合ロビー 多目的スペース (エ) (オ)	会葬者の休憩場所、待ち合わせ場所として利用できる待合ロビーを整備する。 多目的スペースは、社会情勢や市民ニーズを勘案して整備を検討する。 ・増加傾向にある直送等の小規模な葬送に対応可能な多目的スペースの整備を検討する。 ・必要に応じて、フレキシブルな空間として活用が可能なスペースとし、格調や尊厳を保ちながら、パーテーションなどの設置を検討する。	新たな設備
収骨室	収骨室を複数（2室以上）整備し、増加する火葬需要に対応する。また、告別室と収骨室を一体化する整備手法を検討する。	

※（ ）内は、21ページの写真（新たな整備を検討する設備イメージ）に対応

○外構・庭園等の整備

項目	内容	備考
構内の通路	<p>建物内の通路は、「会葬者動線」と「管理者動線」を可能な限り視覚的に分離し、火葬場としての整然とした空間を創り出す。</p>	
駐車場	<p>駐車場は、歩行者の安全確保やバリアフリーに配慮するほか、車椅子利用者用駐車場の配置場所、マイクログラス等大型車両用駐車場の整備を検討する。</p>	
環境緑地・公園等との繋がり	<p>火葬場の環境緑地は、非日常行為である葬送行為に対する、周辺からの結果を果たすとともに、周辺環境との調和・公園等との繋がりなど、立地状況に合わせた新たなランドスケープの創出に繋がる。</p>	
庭園等	<p>庭園等の計画は建物デザインや環境緑地と関わりがあり、計画段階から景観との調和等に留意する。特に建物まわりの植栽は、四季を通じて楽しめる花木がバランスよく配置されることにより、年間を通して会葬者にやさぎと憩いを与える効果が期待できる。</p>	
供養塔・納骨堂	<p>供養塔等は、遺族の目に触れても尊厳を損なわないモニュメント（供養塔等）として設置を検討する。 納骨堂は、引き取りがない故人のお骨を安置する施設として、将来的な葬送観の違いを見据えて、設置を検討する。</p>	新たな整備

○施設整備の留意・配慮項目

項目	内容
建物デザイン	建物デザインについては、14～17 ページのコンセプトを満たしながらも、フレキシビリティを活かした内部空間デザインなど、全体がうまく調和してコーディネートされるように、基本計画・設計に引き継いでいく必要がある。
バリアフリー、ユニバーサルデザイン	老人、幼児、身障者を含むすべての会葬者に配慮して、火葬場施設全般にバリアフリー、ユニバーサルデザインの整備を検討する。
動線計画	会葬者が、円滑な葬送の流れを感じることができるよう、一体的でわかりやすい動線計画を検討する。
サインデザイン	会葬者が利用しやすい施設とするため、告別、火葬、収骨、待合・休憩・トイレの各所のサインデザイン及び施設案内サインを検討する。
車寄せ	火葬場への移動手段（霊柩車、乗用車、マイクロ・大型バス）を考慮し、車寄せの庇の高さ、長さを検討する。